

# ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年10月10日～2016年10月16日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年10月19日

在ジョージア大使館

## 1. アブハジア・南オセチア

### 【アブハジア】

#### ▼「アブハジア共和国大統領府長官」の任命(10日)

・ハジンバ「アブハジア共和国大統領」は、アルシバ「議会議員」を「大統領府長官」に任命。

## 2. 外 政

#### ▼キルギス大統領のジョージア訪問(12日-13日)

・アタムバエフ・キルギス大統領がジョージアを初めて訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領と会談。拡大フォーマットでの会談にはジョージア側からクムシシヴィリ経済・持続的発展相、ジャネリゼ外相、ジェジェラヴァ教育科学相、ムゲブリシヴィリ内相、ハドゥリ財務相、アバシシヴィリ大統領府事務局長、プハラゼ大統領外交補佐官、キルギス側からアブディルダエフ外相、ジュヌシャリエフ内相、ボロノフ緊急事態相、サリエフ教育科学相が同席し、拡大フォーマットでの会談の後、大統領官邸にて両国の大統領、政府、財務省、内務省、教育科学省間の、投資の促進、犯罪との戦いにおける協力および教育分野での協力に関する合意への署名が行なわれた。

・会談では二国間の政治的な関係の強化・発展について議論され、両国間のハイレベルの対話の重要性が強調された。また、ジョージアの被占領地域の状況・人権侵害も取り上げられ、「マ」大統領は、ジョージアの主権・領土一体性に対するキルギス大統領の支持に感謝を述べた。地域におけるジョージアの役割および地域間協力の発展についても議論された。

・「マ」大統領はジョージア・EUの連合協定およびDCFTAが両国間の互恵的な貿易・経済関係の発展に特別な可能性をもたらすと指摘した。また、ジョージアは東西の架け橋として、欧州との統合の恩恵をパートナー諸国とも共有する用意があると述べた。

#### ▼米艦船のバトゥミ入港(12日)

・米第6艦隊司令船USS Mount Whitneyが「海上の安全・安定を高め、同盟諸国・パートナー諸国との関係を強化するため」バトゥミ港に到着。ジョージアへの寄港は4度目。

#### ▼駐米大使の任命(13日)

・13日、マルグヴェラシヴィリ大統領はバクラゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣を新しい駐米大使に任命。既に9月初めにクヴィリカシヴィリ首相が国会選挙後の任命を示唆していた。「バ」新駐米大使は、ジョージアのNATO加盟、国防能力の強化、領土一体性に関連する諸

問題が米国での活動の焦点になると述べた。

#### ▼欧州エネルギー共同体への加盟(14日)

・サラエボにてエロシヴィリ・エネルギー相がジョージアの欧州エネルギー共同体(Energy Community; EC)への加盟に関する議定書に調印。2016年2月から加盟に向けた協議を行ってきた。今後、ECメンバーとして、電力・ガス網、環境、再生エネルギーなどに関するEUの規制の実施に関与するようになる。

・ECのメンバー国はEU加盟国のほかアルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、コソボ、マケドニア、モルドバ、モンテネグロ、セルビア、ウクライナ。

## 3. 内 政

#### ▼アラサニア元国防相の政治活動停止、自由民主主義者党幹部の離党(10日)

・10日、アラサニア自由民主主義者(FD)党首が会見を開き、当面の間、政治活動を止めると発表した。「ア」党首は国会選挙で第41小選挙区(ゴリ市など)で立候補しており(19.38%の得票率で第2位)、決選投票に進む見込みであるが、「ア」党首は決選投票を辞退すると述べた(ただし、中央選挙委員会の発表によれば、決選投票の辞退は認められない)。「ア」党首は会見で、「我々の公約の実現のためには、国会で活動するチームが必要であるが、残念ながら、その可能性はなくなった。国内政治に積極的に影響を与えられる可能性が見えないため、一時的に政治の世界を離れる決断を下した」と述べた。

・「ア」FD党首の発表の直前に、FD幹部の一人であるペトリアシヴィリ元欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣も離党を発表していた。

・12日、FD所属の5名の国会議員が離党を発表。ケケナゼFD幹事長は、同党は政治活動を継続し、2017年10月の地方選挙に向けて準備を進めると述べた。

#### ▼決選投票・新国会への統一国民運動の参加(11日)

・11日夜、統一国民運動(UNM)は政治評議会会合を開き、小選挙区での決選投票および新国会をボイコットしないことを決定した。サーカシヴィリ前大統領(現ウクライナ・オデッサ州知事)をはじめ一部の幹部はボイコットを主張していた。

・会合後、バクラゼ政治評議会議長は、「イヴァニシヴィリ元首相の『一党独裁』を許してはならず、UNMは国会のような政治的闘争の手段を放棄してはならない。そのため、不平等な条件、選挙の不正、圧力にも拘らず、党は決選投票に参加し、国会にも参加する」と述べた。

・暫定結果によれば、44の小選挙区の決選投票で「ジョージアの夢・民主ジョージア」(GDDG)とUNMの候補者が対決する見込み。

・UNMは、GDDGが憲法改正に必要とされる議席の4分の3を獲得する恐れがあるとして、決選投票ではGDDG以外の候補に投票するよう国民に呼びかけている。

#### ▼マルネウリ地区の投票所での騒乱に関与した容疑者の逮捕(13日)

・10月8日の国会選挙投票日にマルネウリ地区キジラジュロ村の投票所で起こった騒乱に関連し、警察は6名の青年を選挙事務の妨害と警官への抵抗の容疑で逮捕。統一国民運動(UNM)は、「事件とは無関係の(同党の)活動家6名が逮捕された」として、逮捕は小選挙区で与党を勝利させるための政府による「圧力と威嚇」であるとの声明を発表。マルネウリ地区の小選挙区では1位がUNM候補(47.91%)、2位がジョージアの夢・民主ジョージア党候補(43.41%)で、22日に実施される予定のキジラジュロ村での再投票の結果に応じて決選投票が行な

われるかどうか決定される。

## 4. 経 済

### ▼2016年1月～9月の国際送金(13日)

・国立銀行の資料によれば、2016年9月の外国からジョージアへの送金額は100.2百万ドル。前年同月比13.1%増。送金元の国別では、金額の大きい順に、ロシア34.9%、米国12.2%、ギリシャ10.8%、イタリア10.0%、トルコ7.4%、イスラエル5.8%、スペイン2.4%、アゼルバイジャン1.1%。EU諸国からの送金が31.1%を占める。

・2016年9月のジョージアから外国への送金額は15.3百万ドル。前年同月比10.9%増。

### ▼2016年9月の工業製品生産者物価指数(13日)

・国家統計局が発表。前月比0.2%上昇、前年同月比1.9%減少。